

【守谷市民活動連絡協議会 様】

上映日：2015/4/19(日)
場 所：守谷市中央公民館(茨城県守谷市)



会場の様子。当日は100名近くの市民が集まった。



上映会協力スタッフ。



協議会会長による挨拶。

「大きな災害」という非日常が「生活」という日常の中に残す傷痕は計り知れない。普段から心の備えが必要。

●上映会を開催するに至った経緯や目的を教えてください。

守谷市民活動連絡協議会のメンバーである守谷ファミリークラブの代表者から映画の紹介があり、サンプルDVDを見て上映会の開催を決定しました。

上映会の目的は、震災から四年が経ち、災害に対する意識が弱くなっているため、忘れずにエールを送ることが大切だと皆さんで確認をすることです。

●実行委員会は、どのようなメンバーでしょうか？

守谷市民活動連絡協議会の登録メンバー5団体(守谷ファミリークラブ、大好きいばらき県民会議守谷市ネットワークワーカ―連絡協議会、NPO法人リカレントネット、NPO法人協働もりや、団塊おやじ仲間づくりの会)が中心です。

●後援、協賛、協力などを得られた団体や個人はありましたでしょうか？

各団体に前売りチケットを割り当て、参加者の確実な確保をお願いしました。

●開催に必要な資金は、どのように捻出しましたでしょうか？

守谷市民活動連絡協議会は市の後援を受けている団体なので、公民館の会場費用等を免除してもらうことができました。

また、チラシ・ポスターなどは市民活動支援センター(市の運営)の協力で作成しました。

●地域にどのようにして告知して、参加を促しましたか？

市の広報及び主催者団体のネットワークとクチコミが中心です。

●鑑賞後の感想や反応など、周りに何か変化はありましたでしょうか？

アンケートを見ても「感動した」や「震災を忘れてはいけないと改めて思った」などの意見があり、意味のある映画が上映できたとの思いです。

終了後の出口で寄付金を出す人が多く、予想外の金額が集まりました。映画の影響が大きかったのではと思います。

●今後、どのような活動を？

守谷では毎年5月と9月に駅前広場でイベントが行われ、この時、被災地支援をアピールし、募金を行っています。この活動は今後も続けていきます。

●上映会の感想を教えてください。

一般的な映画の場合、エンドロールが始まると立ち上がって帰る人が多いですが、この映画の時はそういう人はほとんどいなくて、2014年の映像もうまく見ていただきました。

●今後、上映会を開催される主催者の皆さんに向けて、メッセージをお願いします。

「大きな災害」という非日常が「生活」という日常の中に残す傷痕は計り知れないものがあります。普段から「起こるかもしれない」と考える心の備えが必要だと思えます。

ご担当者様：守谷市民活動支援センター
高木保 様

守谷市民活動支援センター
<http://moriya-cac.org/>
市民との「協働」によるまちづくりを推進するため、ボランティア活動の総合的な活動拠点として積極的に支援を行なっている。